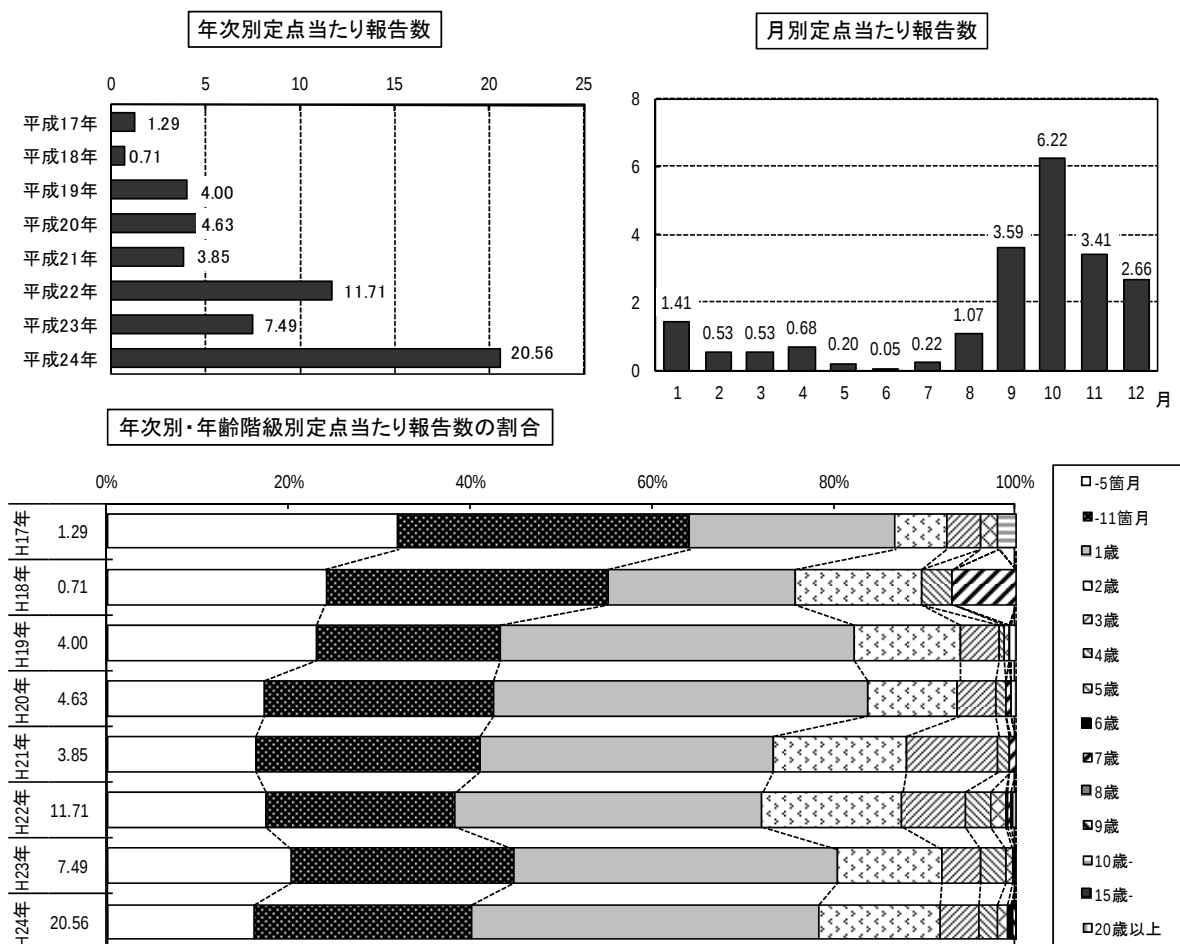


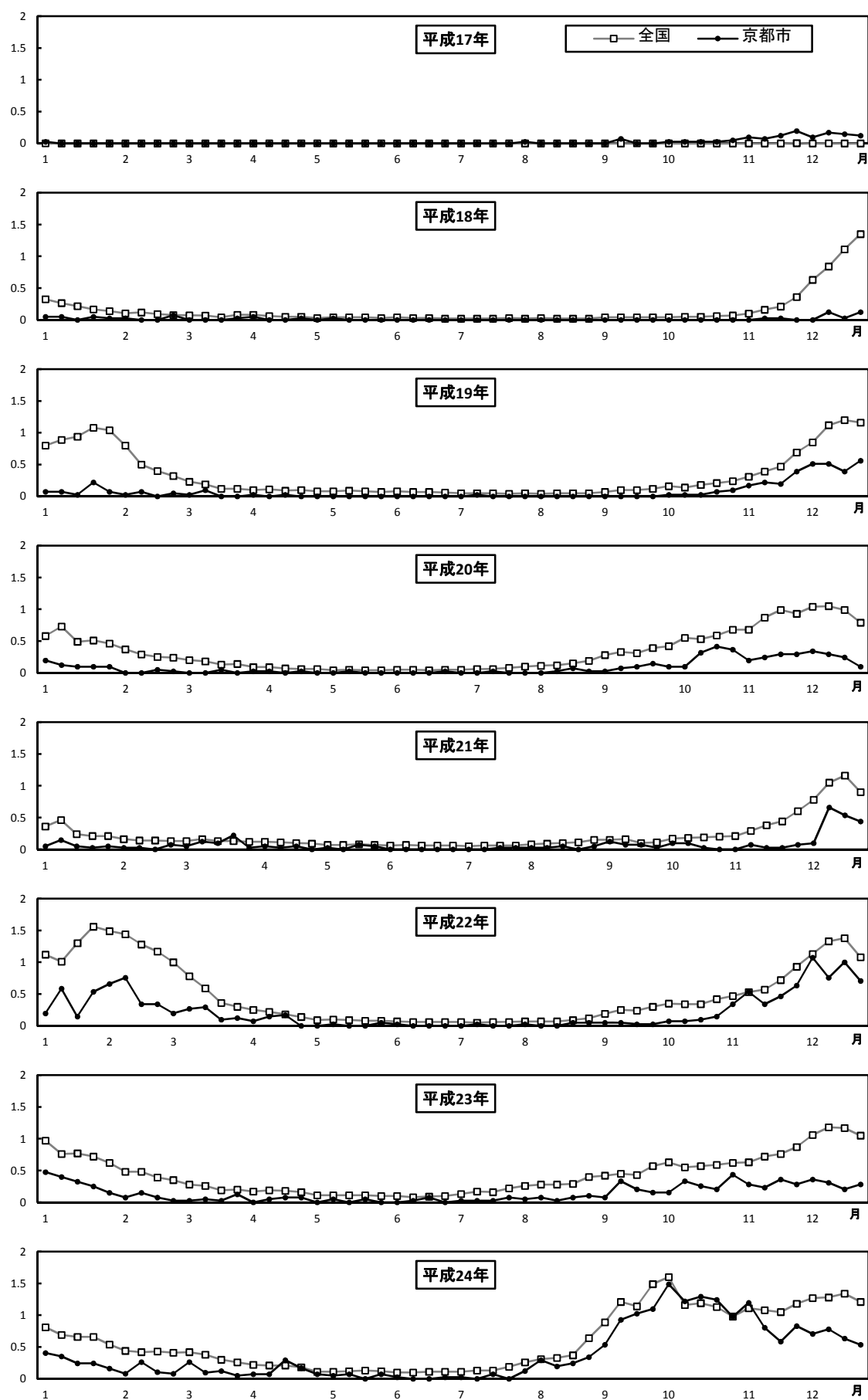
(ア) RSウイルス感染症

詳細は、[患者情報 1](#)（平成 24 年トピックス）「(1) ウ 平成 24 年 R S ウイルス感染症のまとめ」を参照。



RSウイルス感染症

週別定点当たり報告数の推移



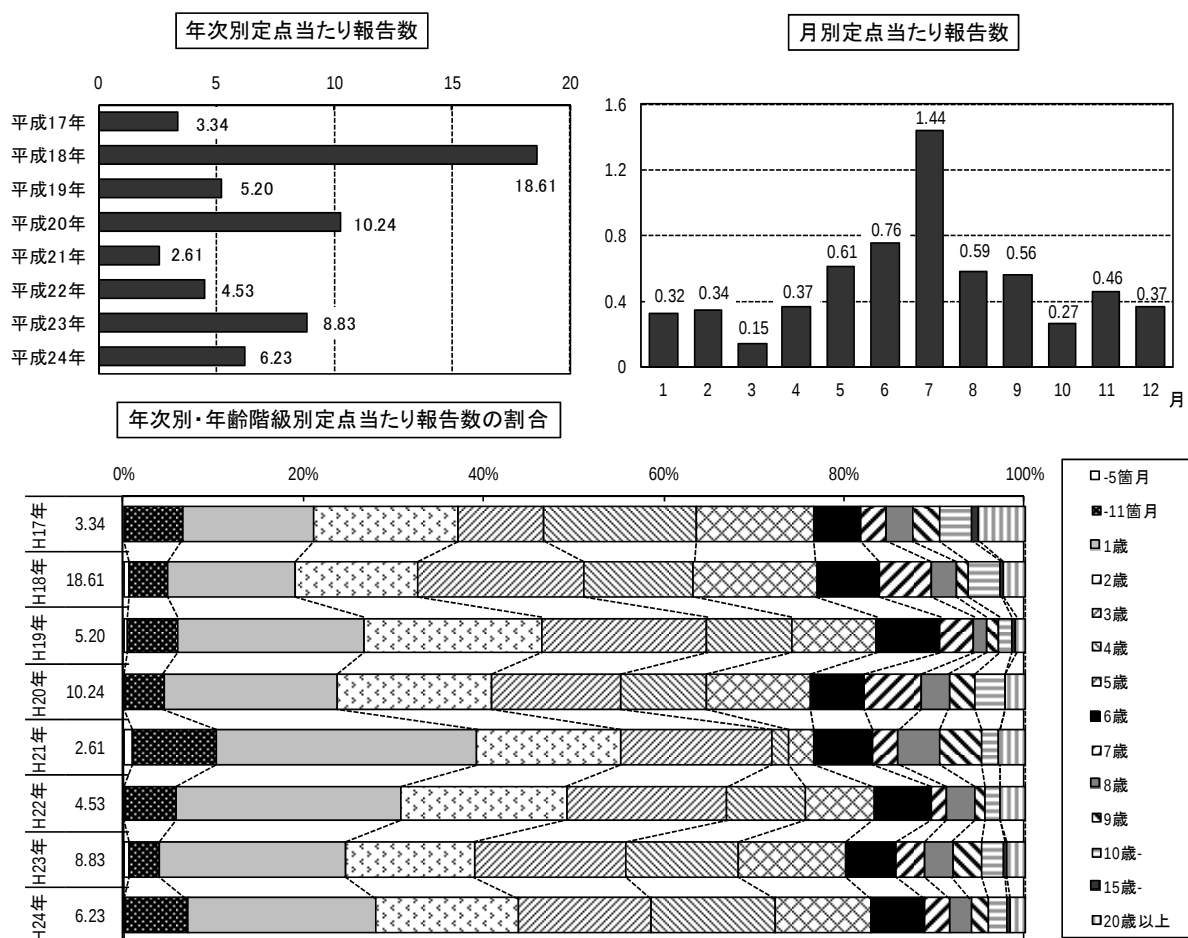
(イ) 咽頭結膜熱

平成 24 年は、年間報告数 253 例、年間定点当たり報告数 6.23、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.99、前年比 0.71 であった。

過去 7 年間の年間定点当たり報告数（2.61～18.61）と比べると、平成 18 年、平成 20 年、平成 23 年に次いで多かった。

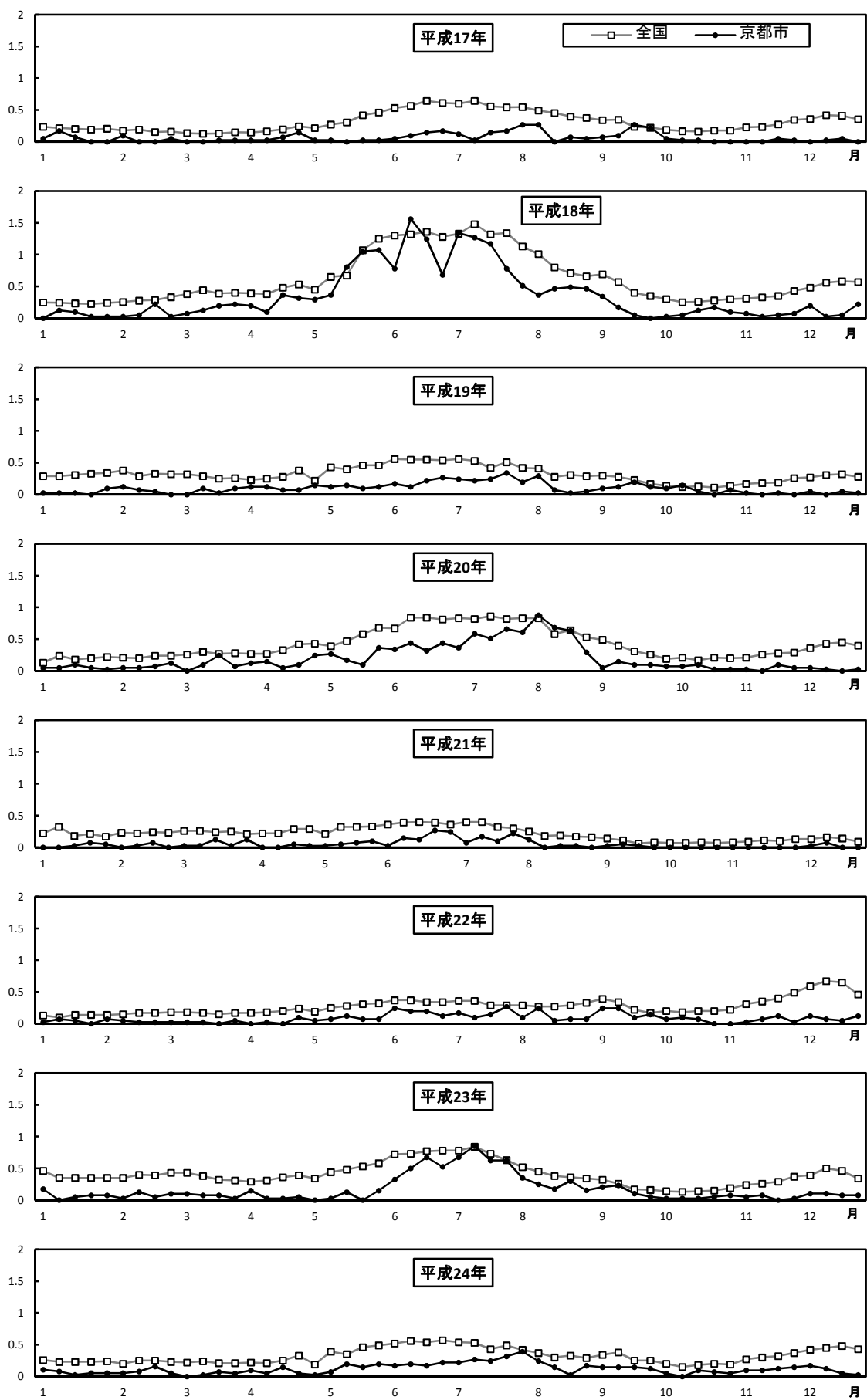
月別年間定点当たり報告数が多かったのは、7 月（1.44）、6 月（0.76）の順で、夏季に多かった。

年齢階級別割合が高かったのは、1 歳（20.9%）、3 歳（15.8%）、2 歳（14.6%）の順で、1～5 歳が 75.8%を占めた。



咽頭結膜熱

週別定点当たり報告数の推移

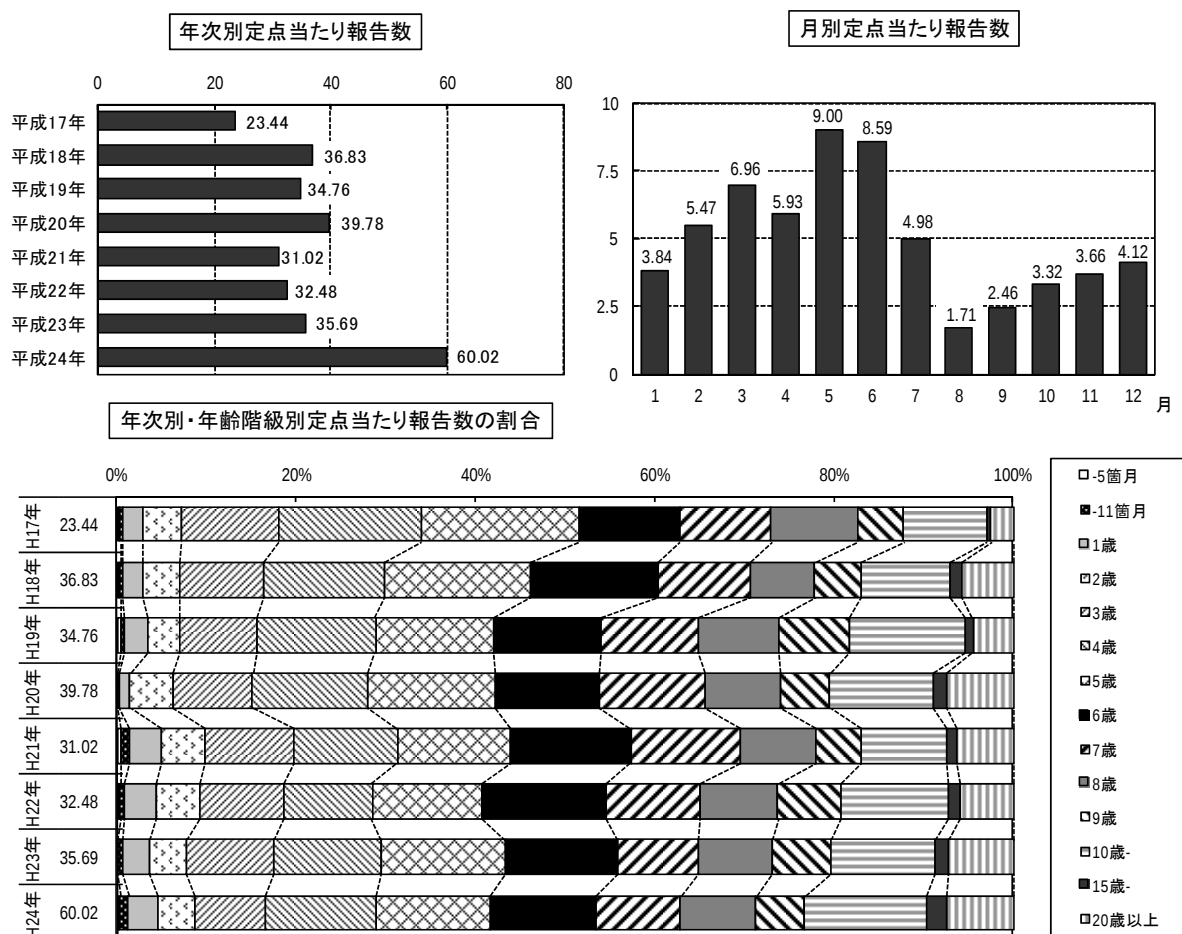


(ウ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

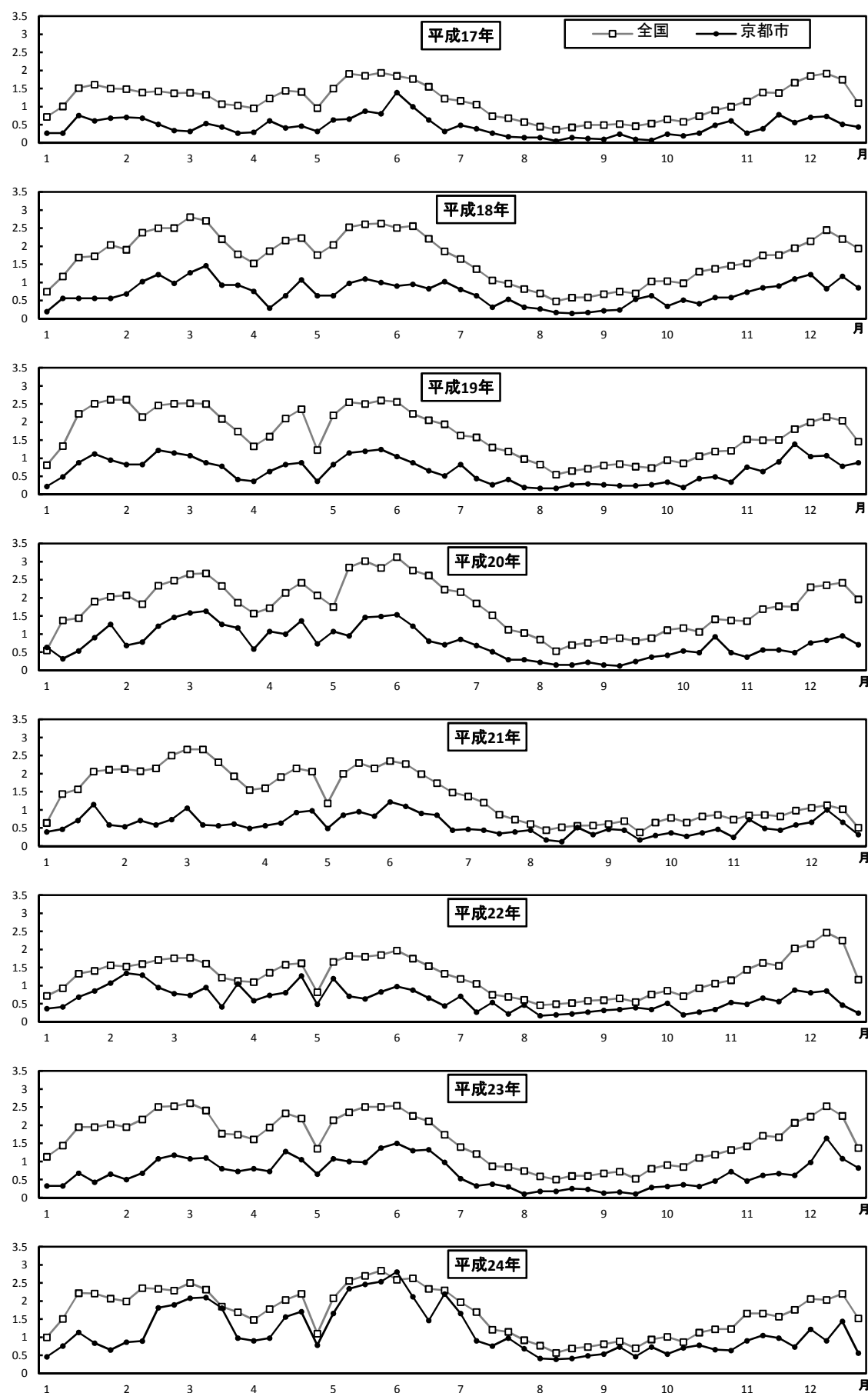
平成 24 年は、年間報告数 2,422 例、年間定点当たり報告数 60.02、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 1.73、前年比 1.68 であった。

過去 7 年間の年間定点当たり報告数（23.44～39.78）と比べると、最も多かった。

詳細は、[患者情報 1](#)（平成 24 年トピックス）「(1) エ 平成 24 年 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎のまとめ」を参照。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 週別定点当たり報告数の推移

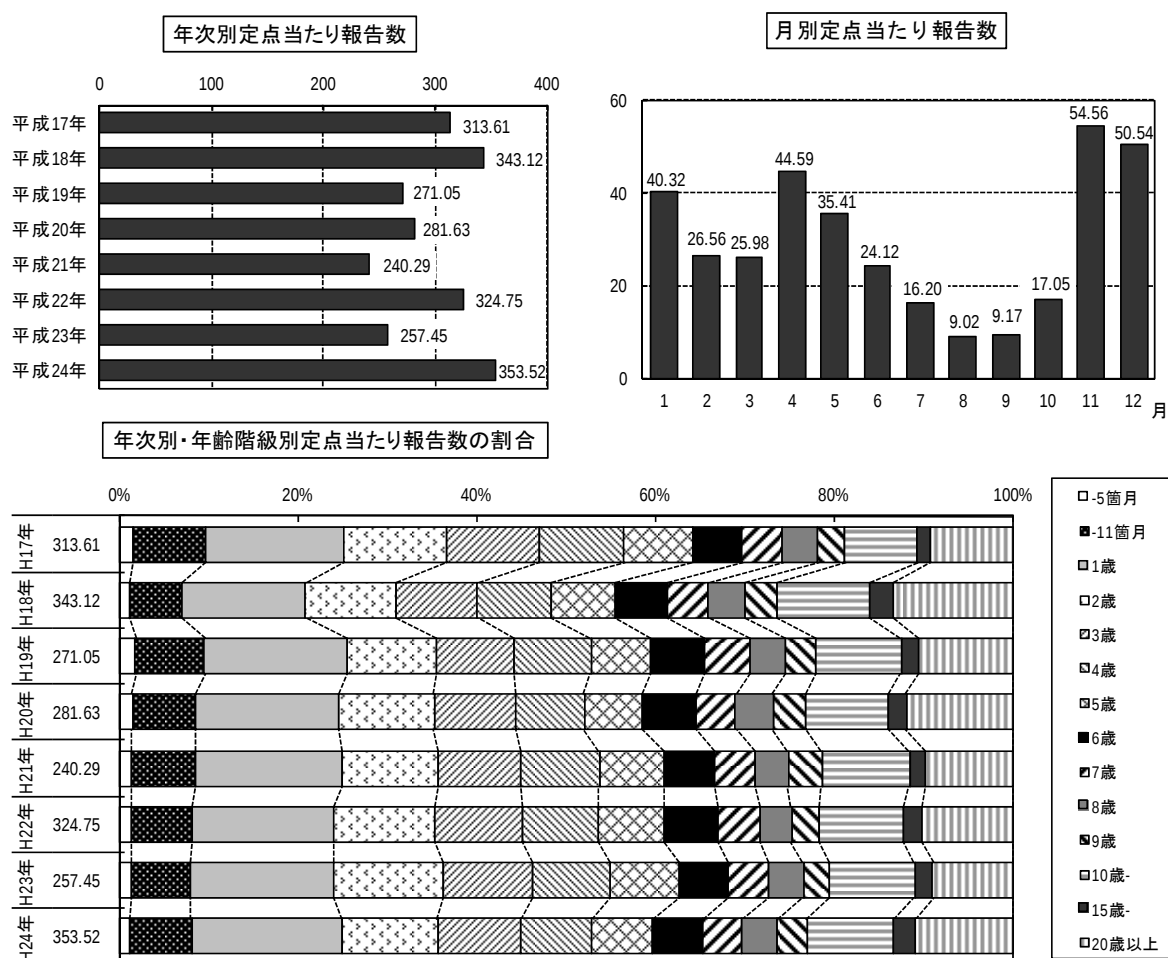


(エ) 感染性胃腸炎

平成 24 年は、年間報告数 14,227 例、年間定点当たり報告数 353.52、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 1.29、前年比 1.37 であった。

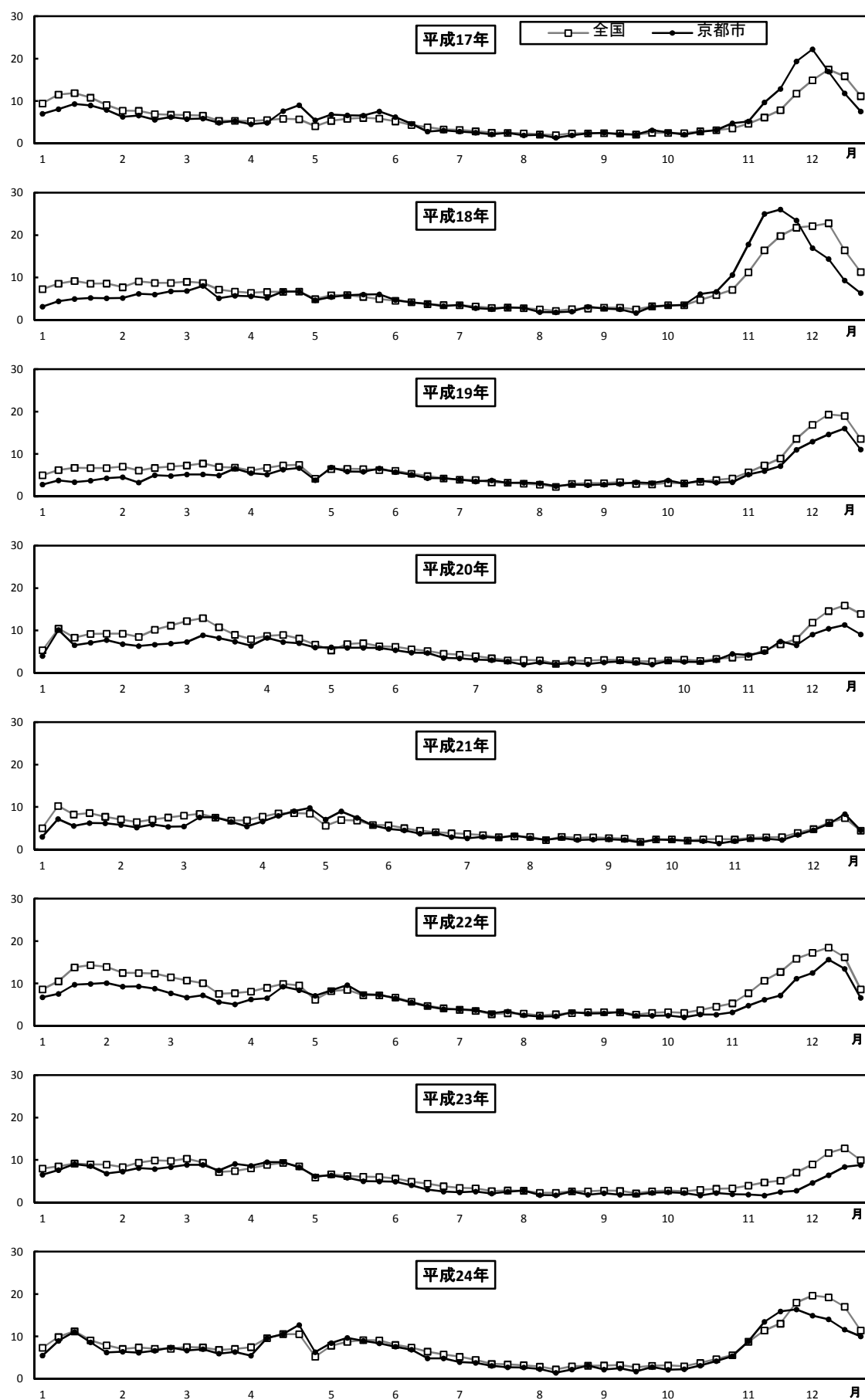
過去 7 年間の年間年間定点当たり報告数(240.29～343.12)と比べると、最も多かった。

詳細は、[患者情報 1](#) (平成 24 年トピックス)「(1) オ 平成 24 年 感染性胃腸炎のまとめ」を参照。



感染性胃腸炎

週別定点当たり報告数の推移



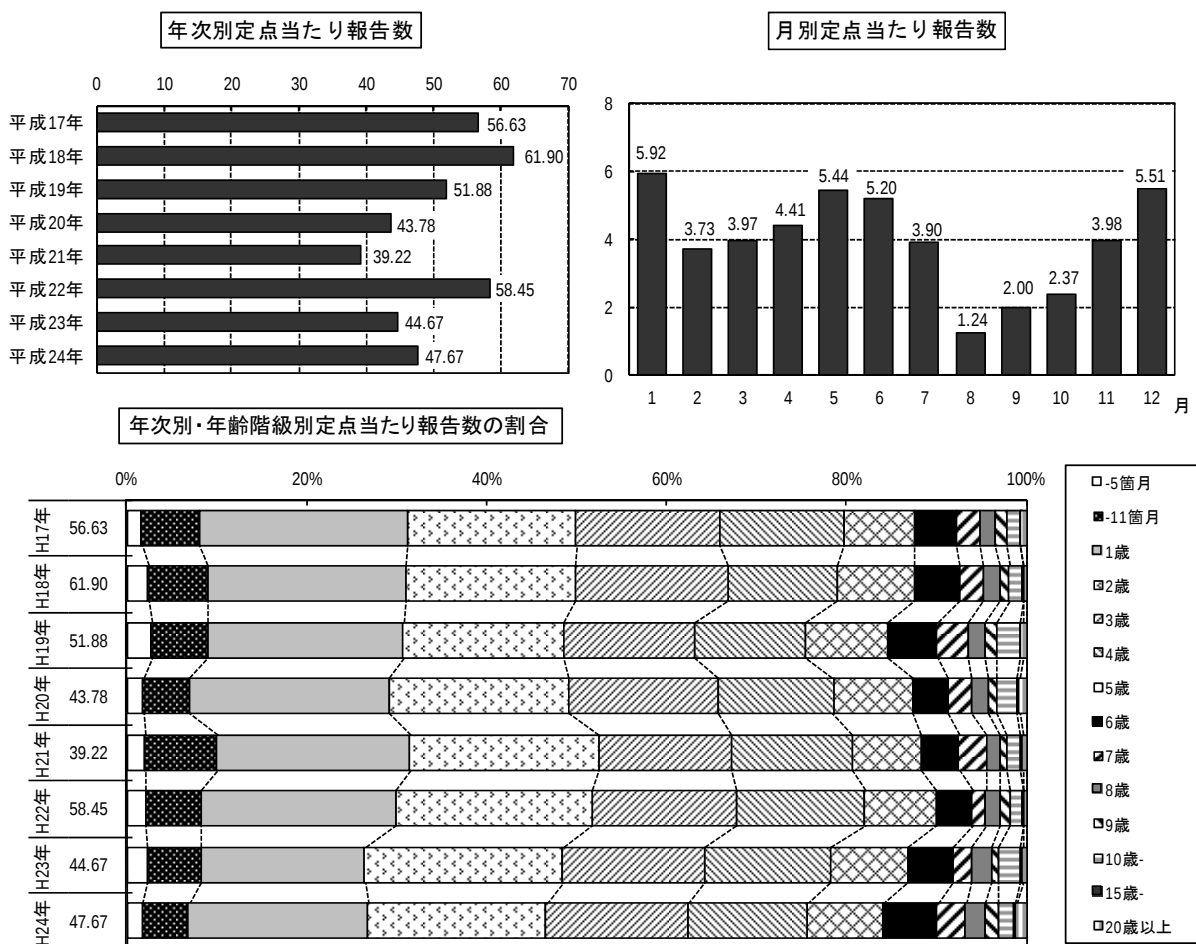
(オ) 水痘

平成 24 年は、年間報告数 1,916 例、年間定点当たり報告数 47.67、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 1.00、前年比 1.07 であった。

過去 7 年間の年間定点当たり報告数（39.22～61.90）と比べると、平成 21 年、平成 20 年、平成 23 年に次いで少なかった。

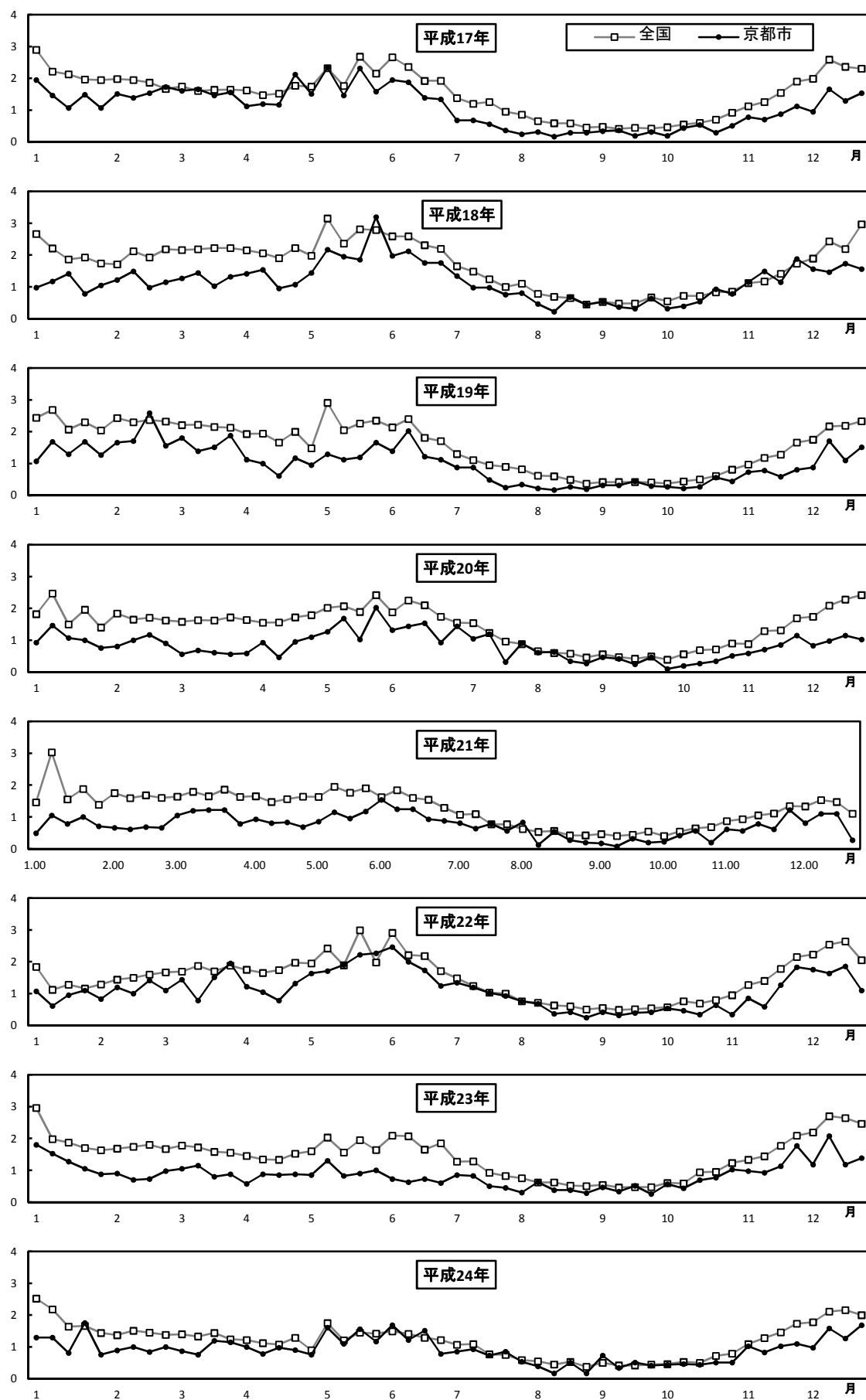
月別年間定点当たり報告数が多かったのは、1 月（5.92）、12 月（5.51）、5 月（5.44）、6 月（5.20）の順で、8 月～10 月の報告数は少なかった。

年齢階級別割合が高かったのは、1 歳（19.9%）、2 歳（19.7%）、3 歳（15.8%）、4 歳（13.3%）の順で、1～4 歳が 68.7%を占めた。



水痘

週別定点当たり報告数の推移



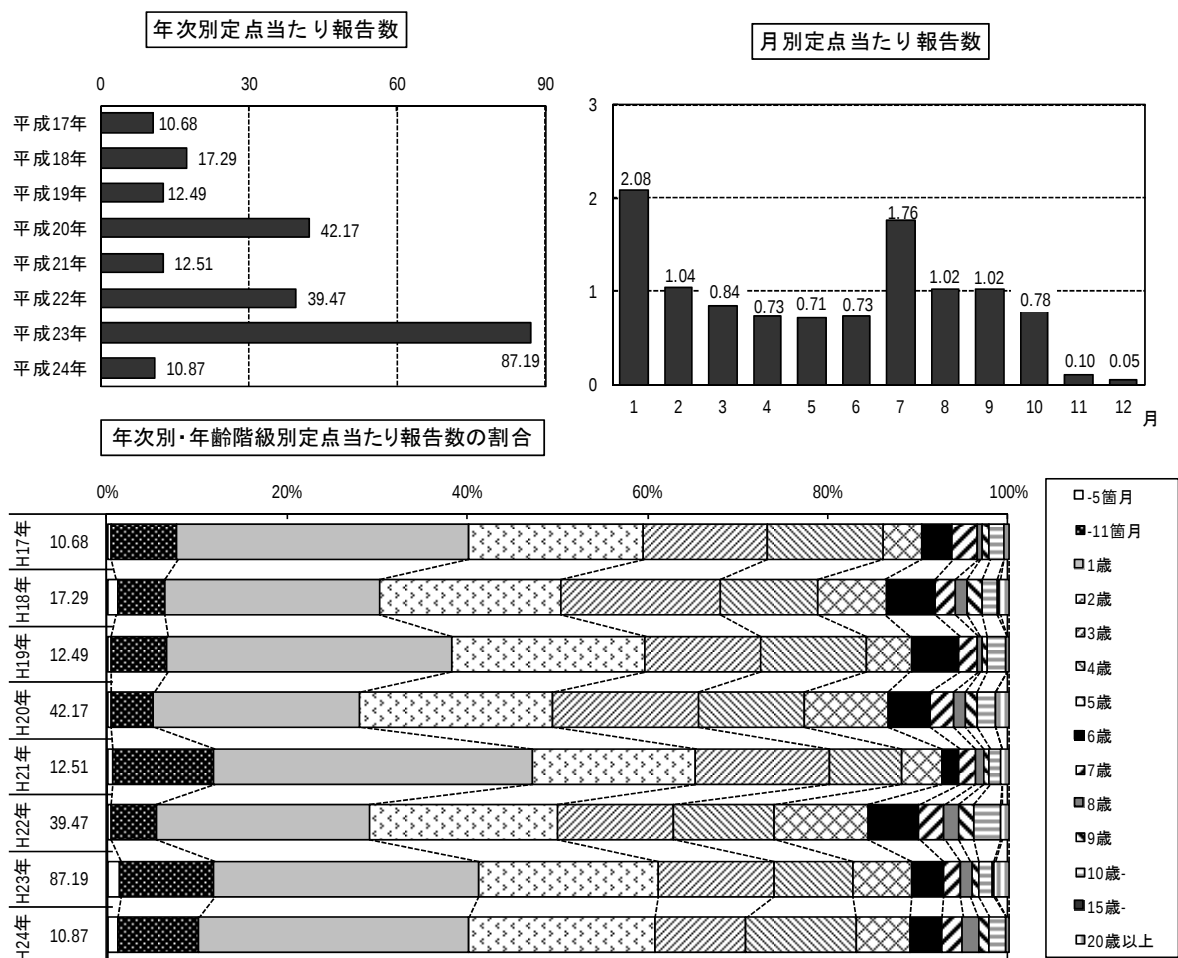
(カ) 手足口病

平成 24 年は、年間報告数 433 例、年間定点当たり報告数 10.87、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.28、前年比 0.12 であった。

過去 7 年間の年間定点当たり報告数（10.68～87.19）と比べると、平成 17 年に次いで少なかった。

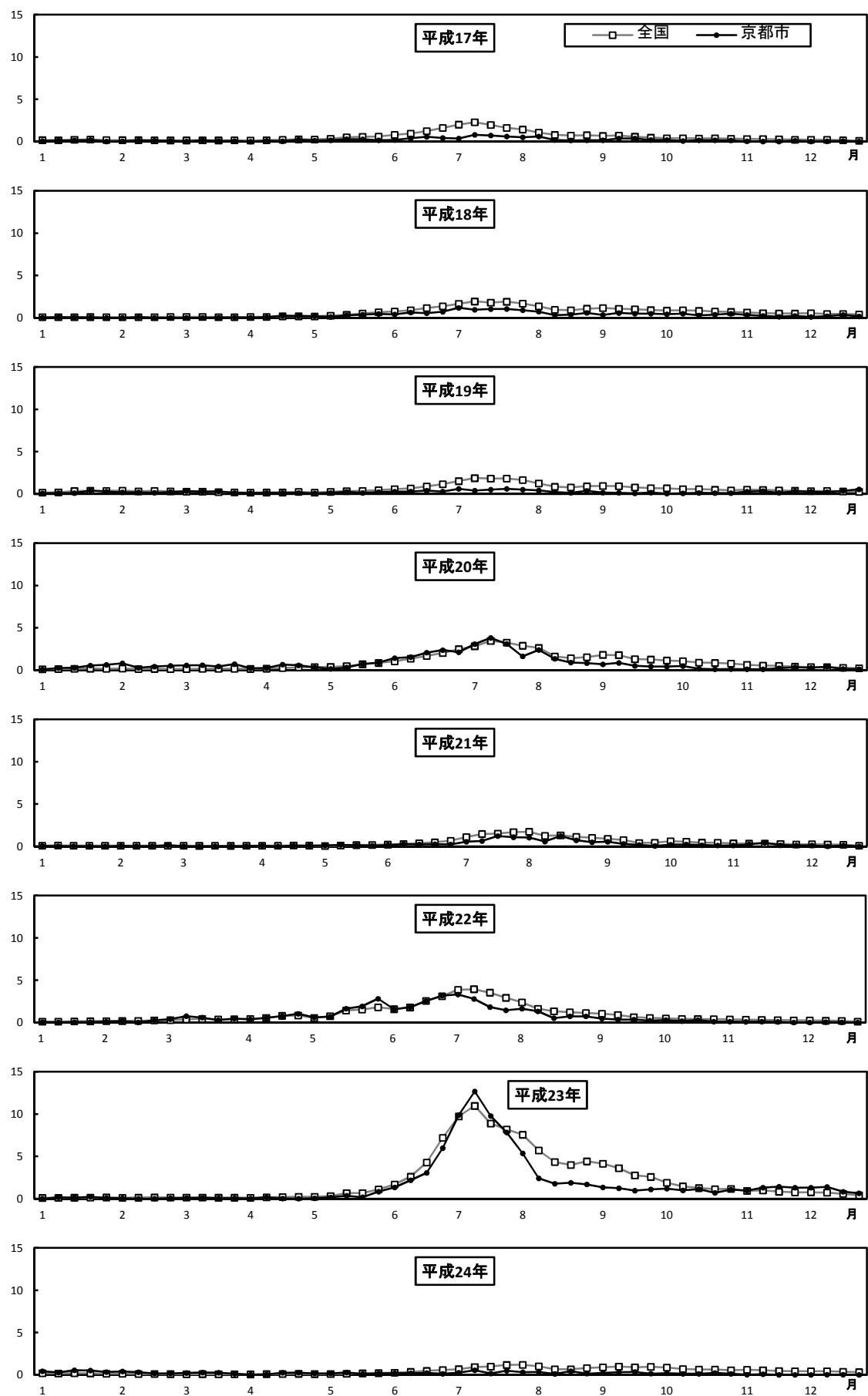
月別年間定点当たり報告数が多かったのは、1 月（2.08）、7 月（1.76）、2 月（1.04）の順であった。

年齢階級別割合が高かったのは、1 歳（30.0%）、2 歳（20.6%）、4 歳（12.2%）の順で、1 歳～4 歳が 73.0%を占めた。



手足口病

週別定点当たり報告数の推移



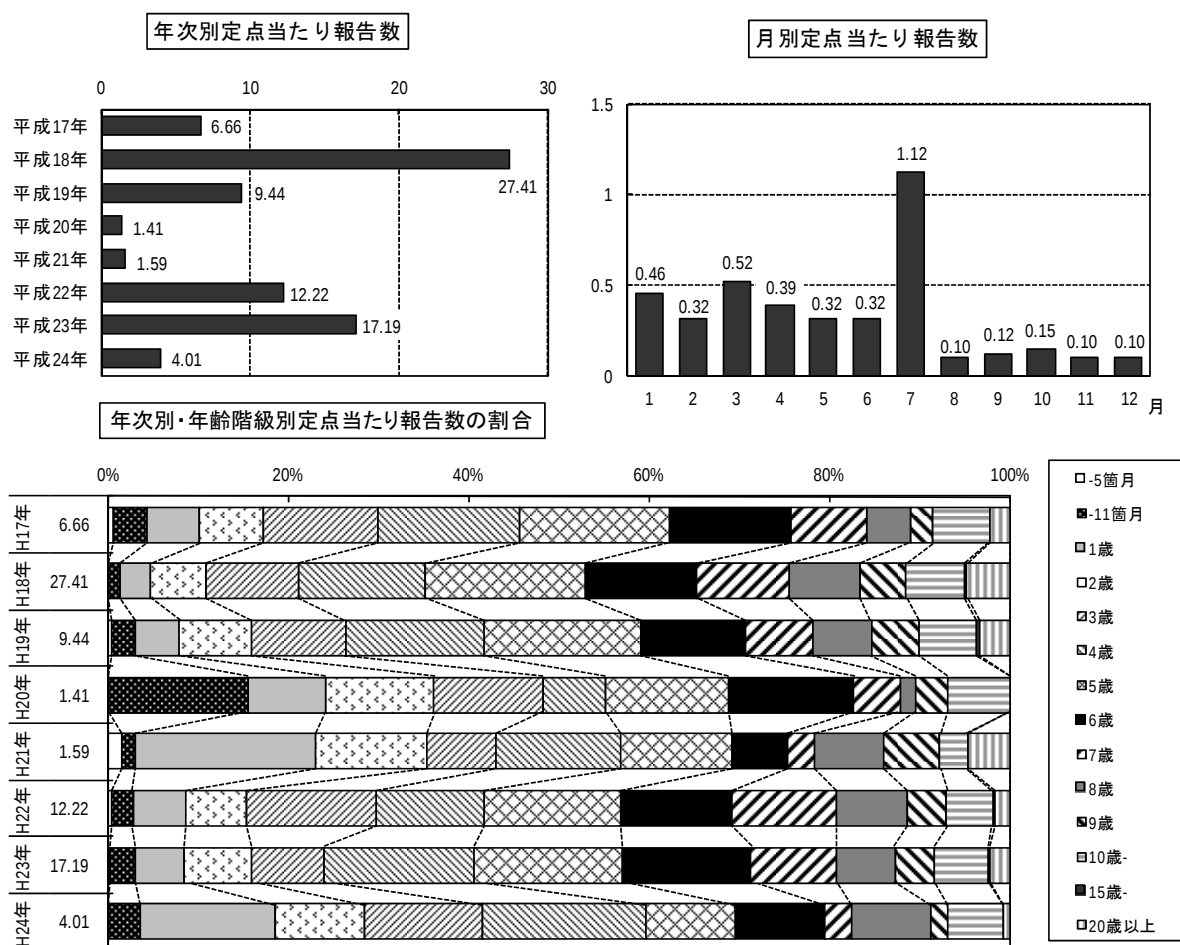
(キ) 伝染性紅斑

平成 24 年は、年間報告数 161 例、年間定点当たり報告数 4.01、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.48、前年比 0.23 であった。

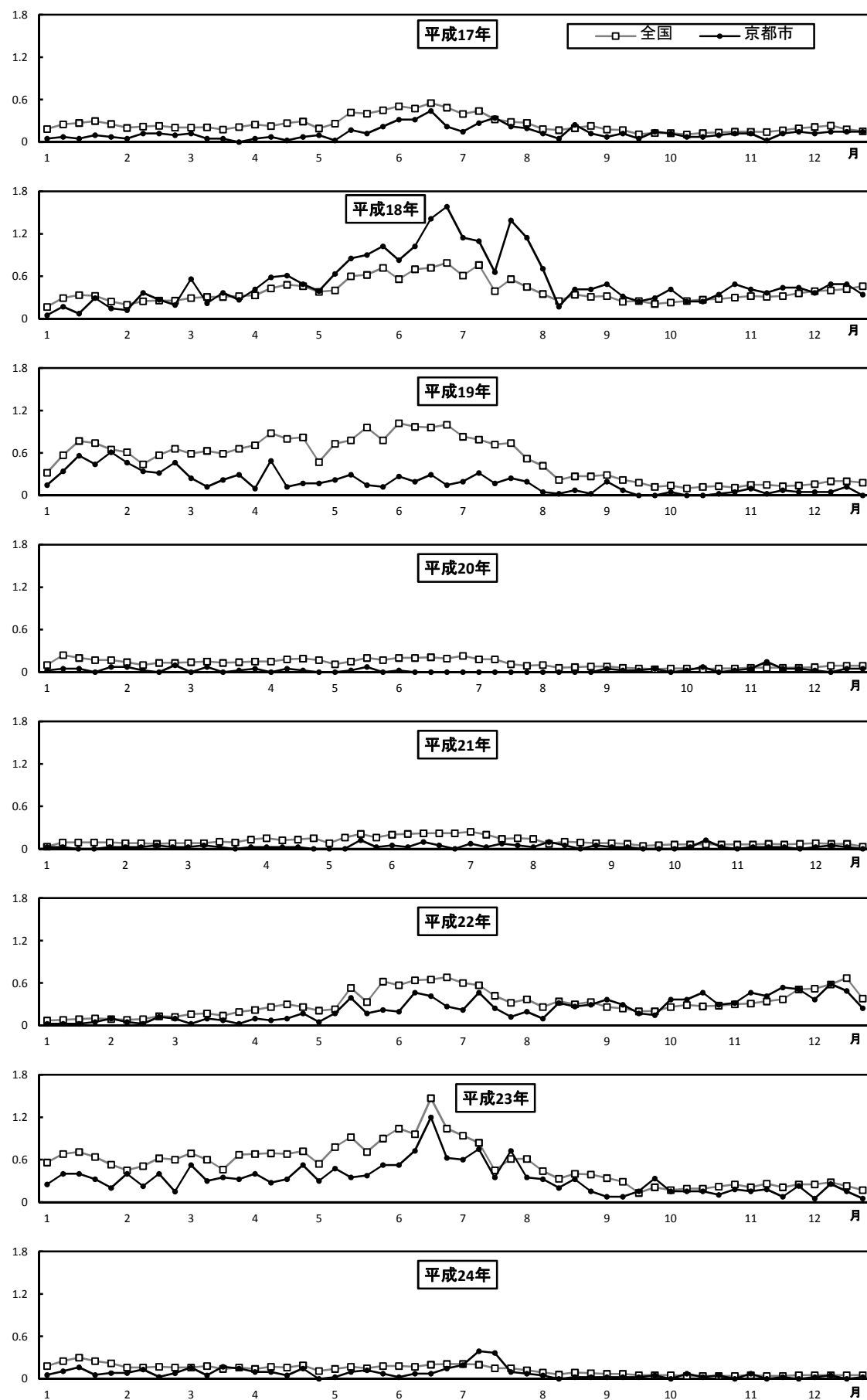
過去7年間の年間年間定点当たり報告数(1.41~27.41)と比べると、平成20年、平成21年に次いで少なかった。

月別年間定点当たり報告数が多かったのは、7月（1.12）、3月（0.52）、1月（0.46）の順であった。

年齢階級別割合が高かったのは、4歳（18.0%）、1歳（14.9%）、3歳（13.0%）の順であった。



週別定点当たり報告数の推移



(ク) 突発性発しん

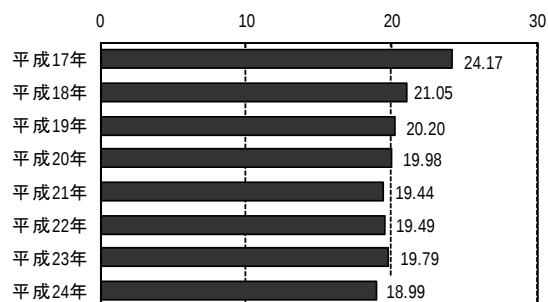
平成 24 年は、年間報告数 768 例、年間年間定点当たり報告数 18.99、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.96、前年比 0.96 であった。

過去 7 年間の年間定点当たり報告数（19.44～24.17）と比べると、最も少なかった。

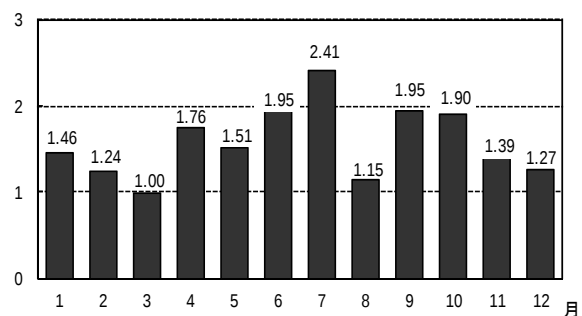
突発性発しんは、通年性の感染症で季節変動はあまりない。

年齢階級別割合が高かったのは、1 歳（47.7%）、6 箇月～11 箇月（43.0%）の順で、6 箇月～1 歳が 90.7%を占めた。

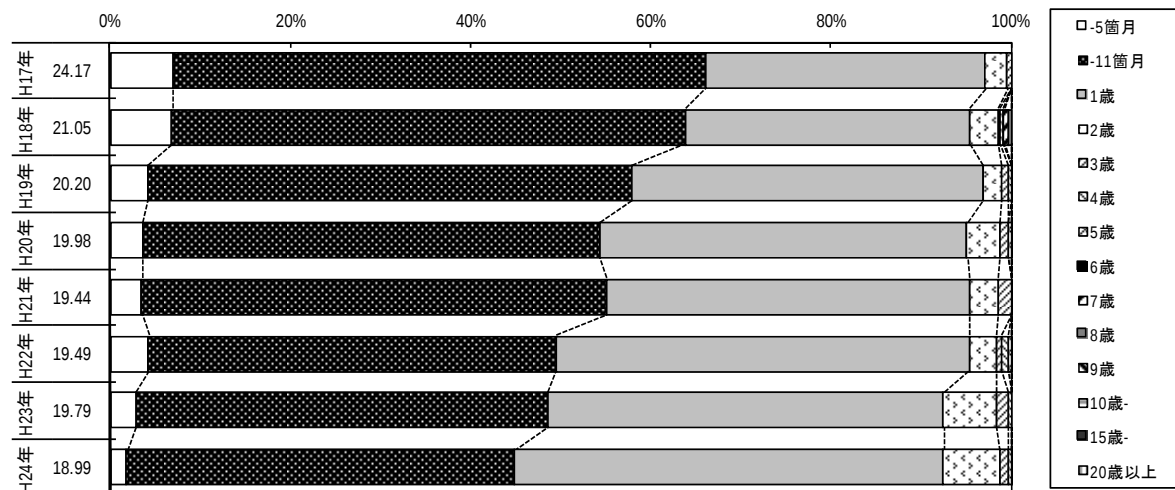
年次別定点当たり報告数



月別定点当たり報告数

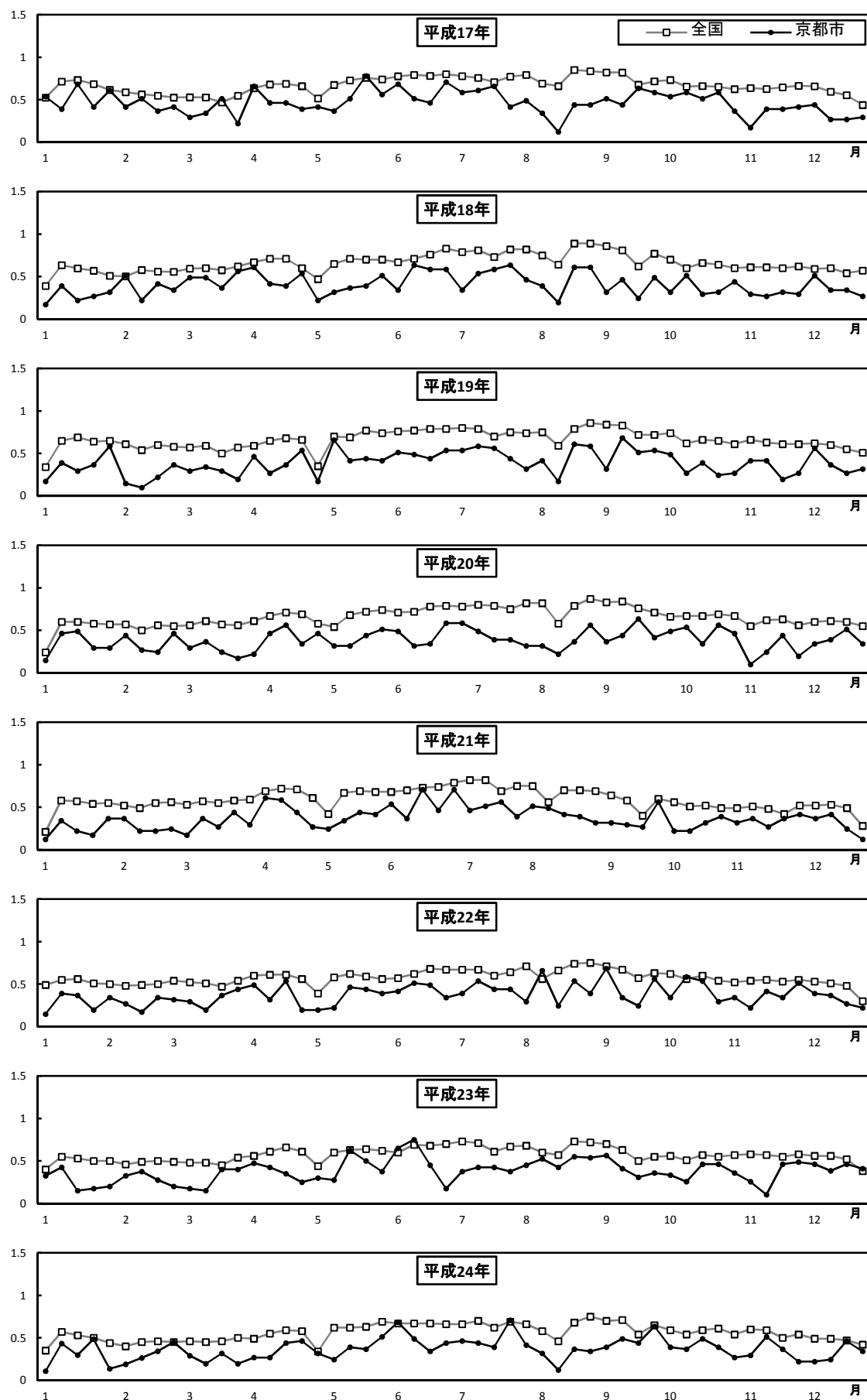


年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



突発性発しん

週別定点当たり報告数の推移

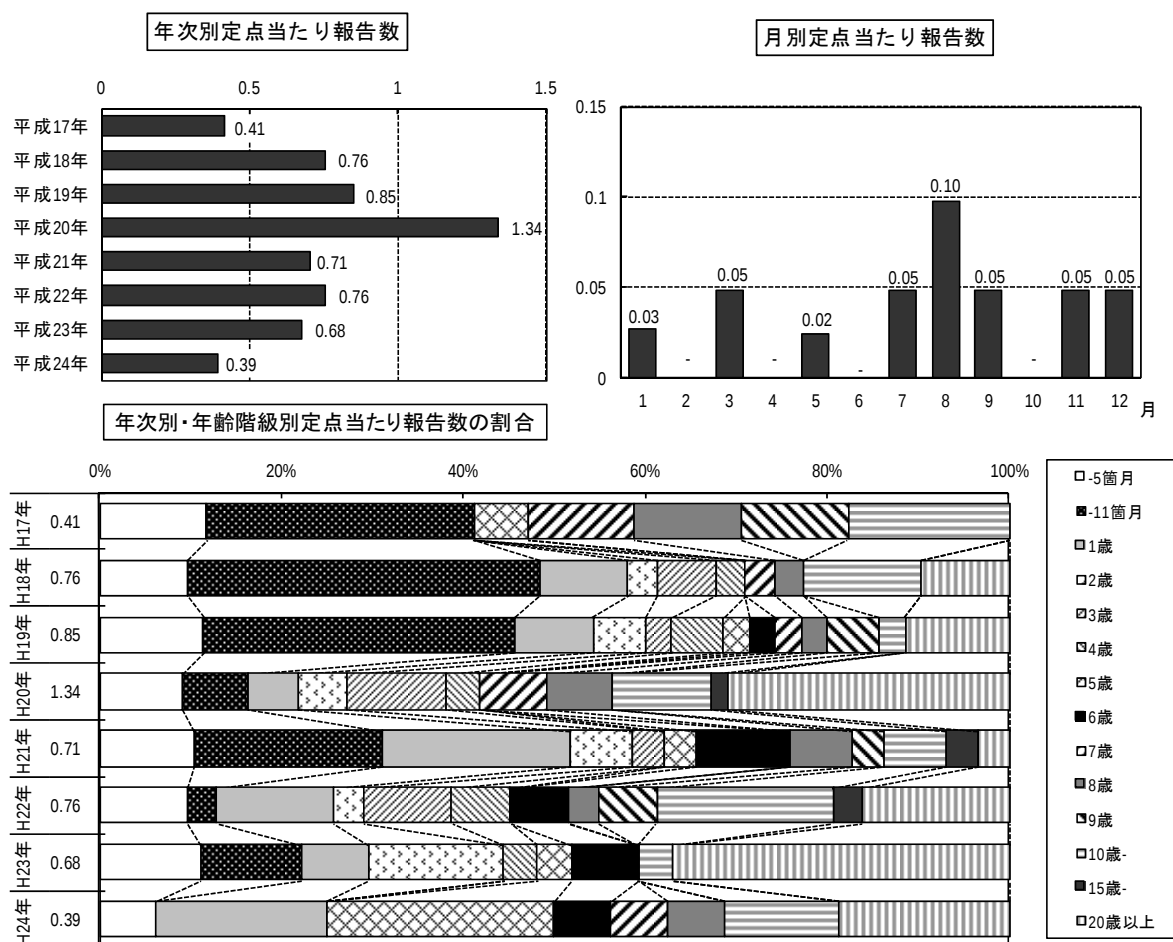


(ケ) 百日咳

平成 24 年は、年間報告数 16 例、年間定点当たり報告数 0.39、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.45、前年比 0.58 であった。

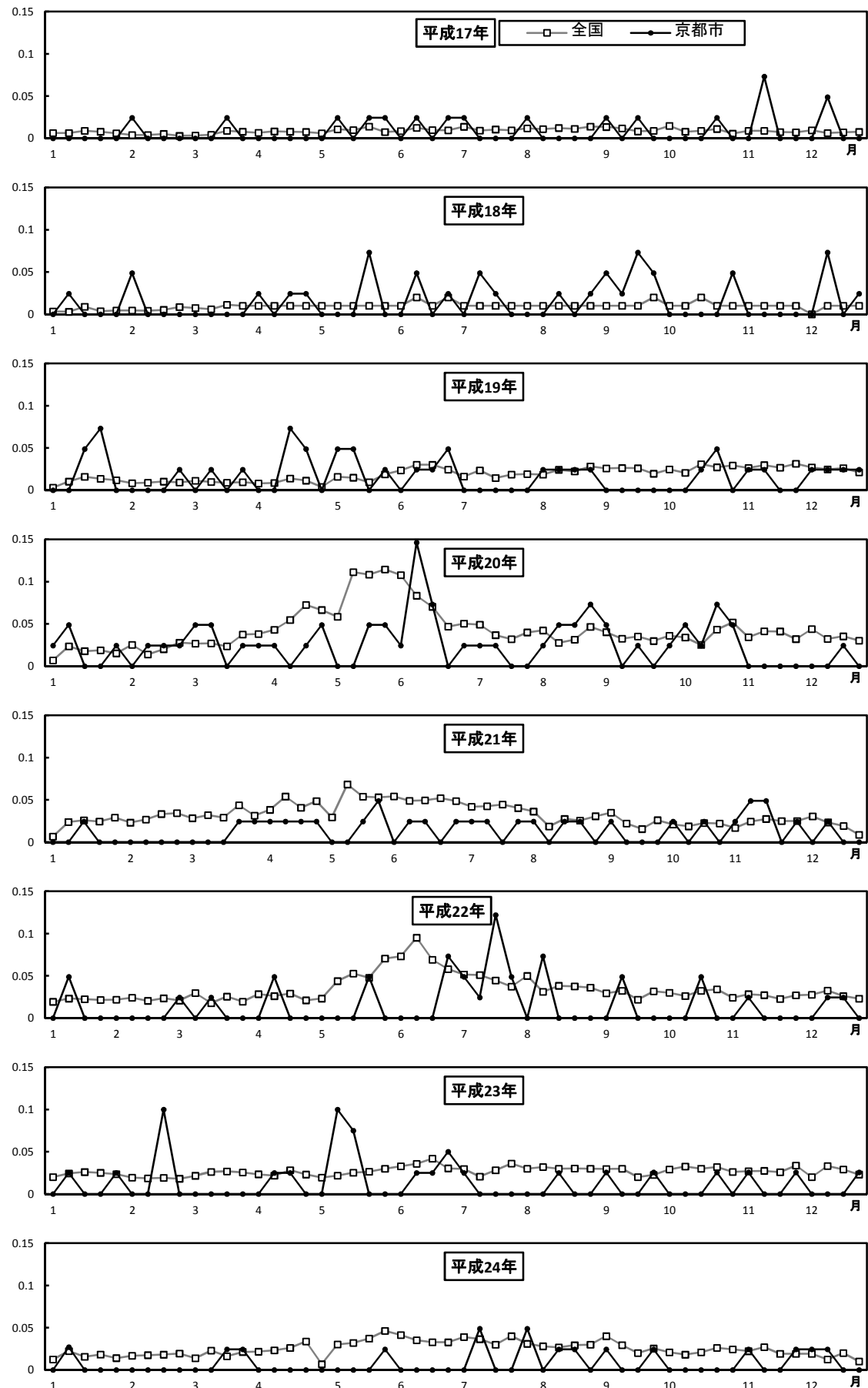
過去 7 年間の年間定点当たり報告数（0.41～1.34）と比べると、最も少なかった。

5 歳階級別では 5～9 歳が、7 例（43.8%）と最も多かった。



百日咳

週別定点当たり報告数の推移



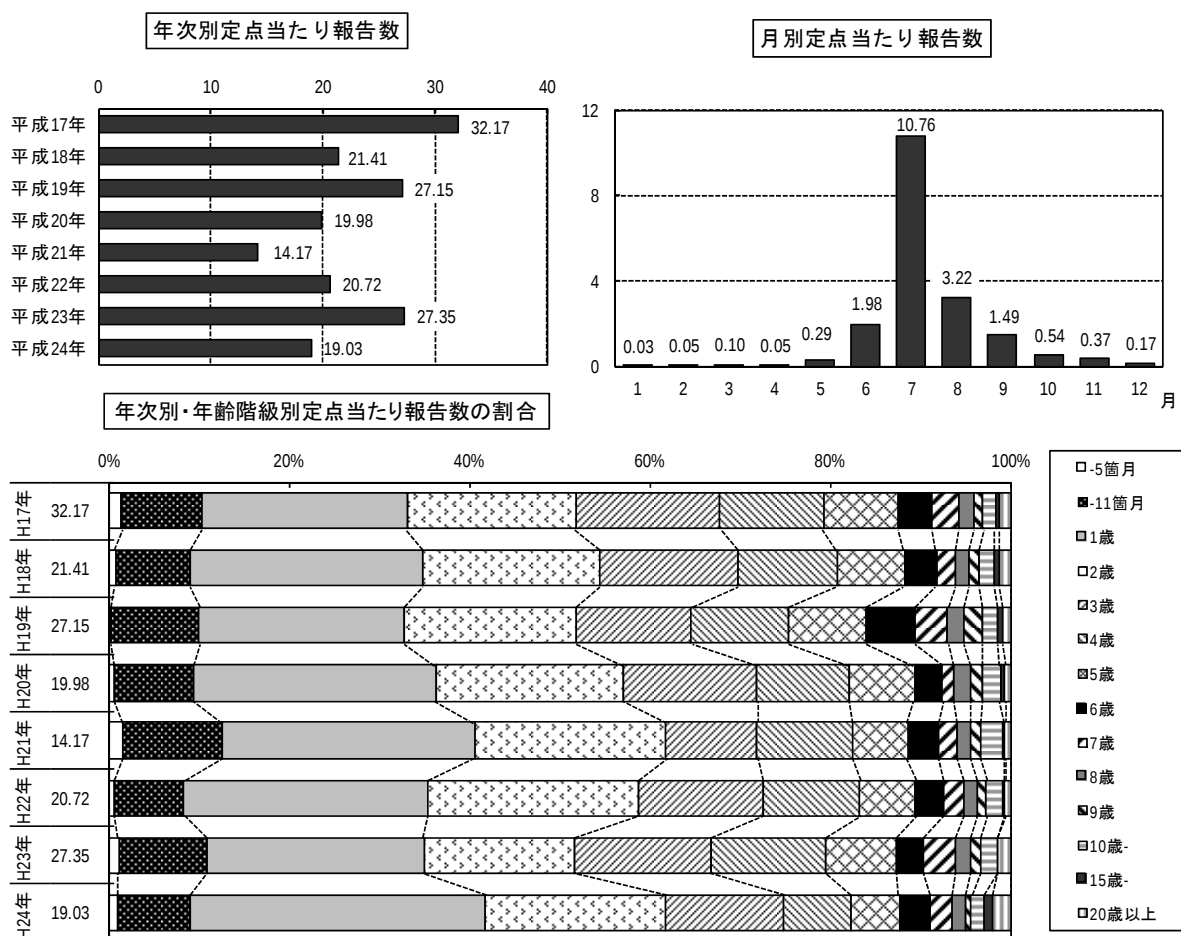
(コ) ヘルパンギーナ

平成 24 年は、年間報告数 780 例、年間定点当たり報告数 19.03、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.87、前年比 0.70 であった。

過去 7 年間の年間定点当たり報告数（14.17～32.17）と比べると、平成 21 年に次いで少なかった。

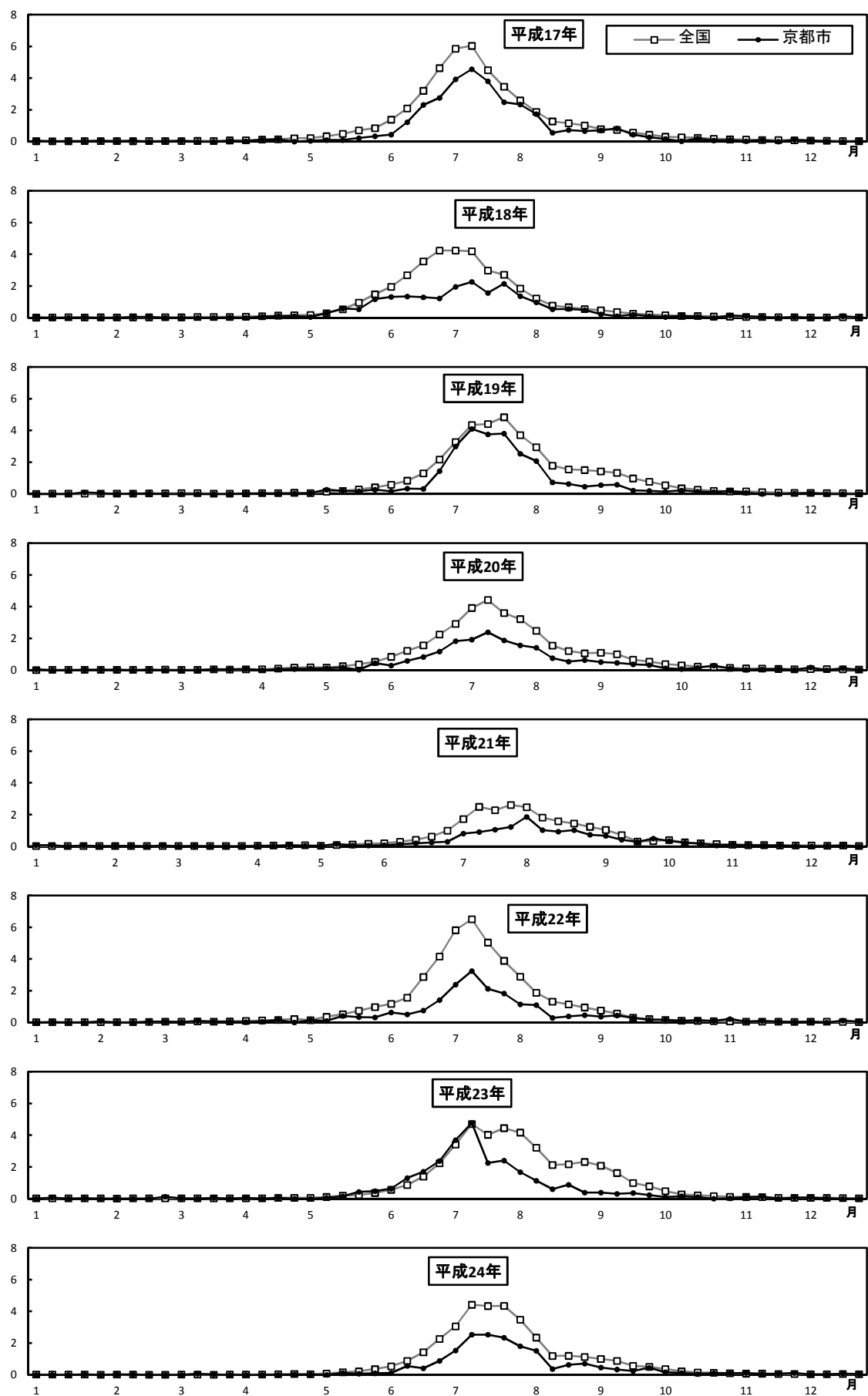
月別年間定点当たり報告数が多かったのは、7 月（10.76）、8 月（3.22）、6 月（1.98）の順で、夏季に多かった。

年齢階級別割合が高かったのは、1 歳（32.7%）、2 歳（20.0%）、3 歳（13.1%）の順で 1～3 歳が 65.8%を占めた。



ヘルパンギーナ

週別定点当たり報告数の推移

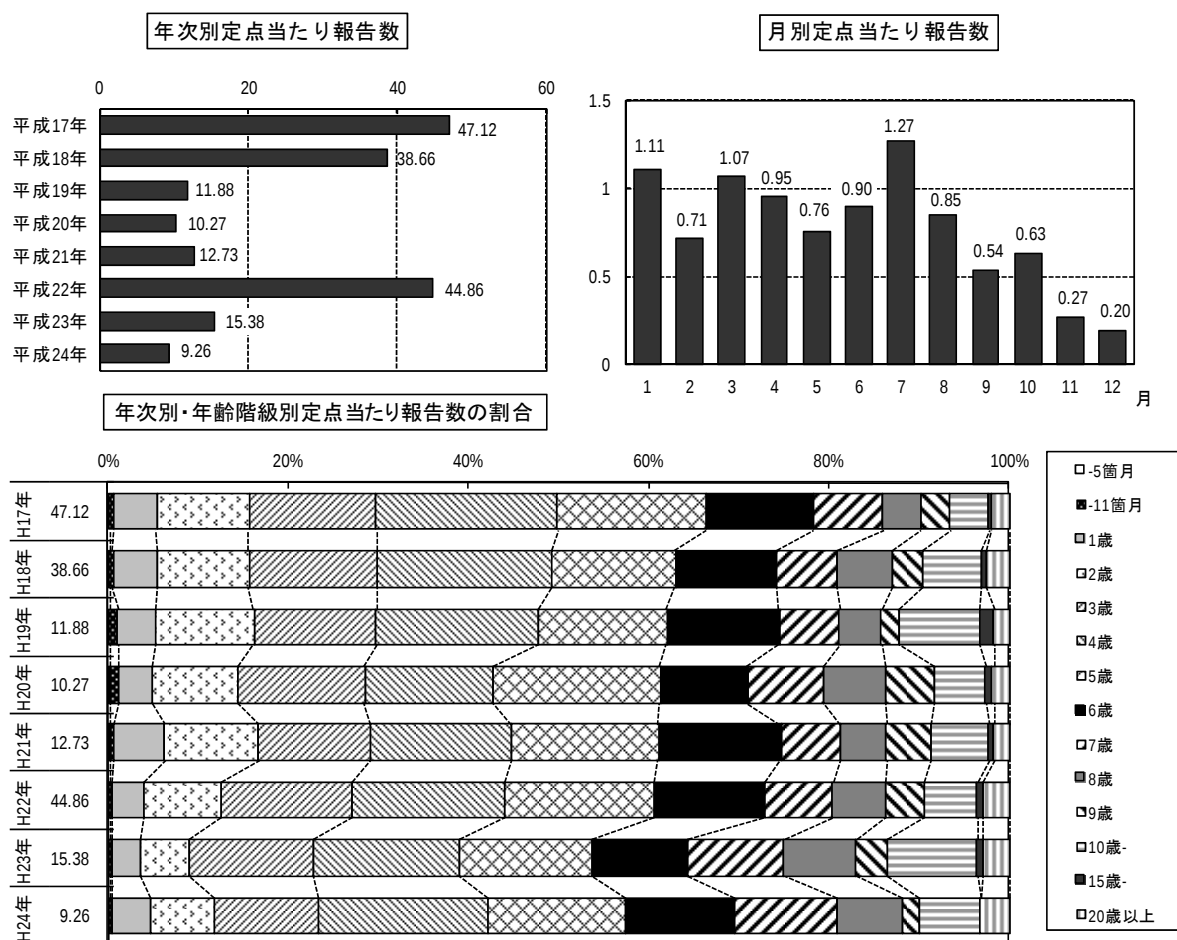


(サ) 流行性耳下腺炎

平成 24 年は、年間報告数 372 例、年間定点当たり報告数 9.26、年間定点当たり報告数の過去 5 年平均値との比 0.49、前年比 0.60 であった。

過去7年間の年間年間定点当たり報告数(10.27~47.12)と比べると、最も少なかった。

年齢階級別割合が高かったのは、4歳（18.8%）、5歳（15.3%）、6歳（12.1%）の順で、3～7歳が69.1%を占めた。



流行性耳下腺炎

週別定点当たり報告数の推移

